

## 会議録

1 附属機関の名称

犬山市史編さん委員会（専門部会）

2 開催日時

令和 7 年 8 月 28 日（木） 午後 6 時 00 分から午後 7 時 10 分まで

3 開催場所

犬山市役所 2 階 201 会議室

4 出席した者の氏名

（1）委員

（専門部会委員）羽賀祥二、河西秀哉、佐々木重洋、岡本耕平、可児光生、笈真理子、中野裕子

（2）執行機関

（歴史まちづくり課）加藤課長、小川課長補佐、市野統括主査、鈴木主査補、河寄主査補、河合

5 議題

（1）通史編の内容について

6 傍聴人の数

0 人

7 内容

1. 開会

2. 議題

（1）通史編の内容について

事務局：原稿の提出状況（8 月 27 日時点）としては、全 12 章 43 節 140 項のうち提出数 43 項（約 30.7%）、本文の約 700 ページのうち 335 ページ（約 47.9%）である。事務局が目を通して気になった点を「原稿確認事項」としてまとめた。文体や表記については、全体が出揃ったら統一していきたいと考えている。（事務局）

部会長：未提出分を勘案すると、ページ数が相当オーバーしそうだ。大変だが、原稿を削っていく作業が必要になる。原稿が出たら順次皆さんに報告して、削れるところは削っていくことになりそうだ。また、今春に目次構成案を固めたが、原稿を書く中で項タイトルが変わった箇所がある。ご確認いただきたい。

委員：調査執筆委員の原稿を確認した。書き出すと色々な要素が出てくるが、ページ数との兼ね合いがあるため、この位にとどめようと判断したこともあった。

部会長：見開きに1つ図版を入れていくと、さらに原稿量が増える。なかなか適切なものが見つからないかもしれないが、執筆の際は図版スペースも考慮しないといけない。

委員：図版スペースのサイズに決まりはあるか。あまりバラバラだと見栄えが悪い。

事務局：レイアウトは入稿後に決まってくる。「ページの○分の1」などになるか。

委員：写真の撮影者名、撮影年などは入れなくてよいのか。

部会長：図版一覧で示せばいいのではないか。権利関係の問題もある。

事務局：キャプションとして入れる想定をしていた。図版一覧としている自治体史もある。

部会長：図版一覧は必要ではないか。事務局と検討する。

委員：参考文献は巻末にまとめて入れるとのことだが、細かなものまで書き出すとすごいページ数になる。文献数を絞った方がよいのか。

部会長：参考文献を絞ってはまずいと思う。新聞記事は本文内へ簡略的に示していくことになるか。

事務局：『犬山市史』などの全般的に参考とする資料は基本文献として一覧のはじめに記載し、その他は各章ごとに記載する。

委員：鋭意執筆中だが、年代表記の不統一や誤字脱字もある状態である。資料編でも問題になったが、個人名をどこまで書くか迷うことがある。功績をたたえる内容の場合に個人名を使うようにはしている。個人の資料が祭礼のマニュアルになっている場合がある。

#### 【原稿確認事項】

○その後の動き、現在進行中の事項をどこまで補足するか。

事務局：第2章第1節3項〈道の駅構想〉…令和元年度、市が整備運営に係る事業者公募の意向を示す時点まで記載しているが、その後の検討の結果、令和6年度には市長が施政方針で道の駅整備を白紙にすることを表明している。

部会長：令和元年度以降の動きについても補足する。

委員：令和の内容はどこまで入れるべきか。あまり直近まで扱っても覆る可能性がある。

部会長：〈道の駅構想〉はもう決着がついているので触れざるを得ない。項目やページ数によるのでは。パンデミックの内容は、健康・医療の分野で令和まで踏み込んで扱うように調査執筆委員へ伝えてある。他分野もページ数との兼ね合いか。

委員：観光・文化班でいうと、既刊『犬山市史』でほとんど触れられていなかった名古屋鉄道と犬山の関係について補足したいので（昭和に遡って）書くつもりである。令和については、令和4年を1つのラインとして定めている。

委員：京都大学霊長類研究所に関しては、令和4年の組織改編まで言及した。

委員：民俗班ではコロナ禍の話が重要なので組み込んでおり、石上げ祭が県の指定文化財になった令和5年まで記述している。

事務局：第2章第1節第4項〈福祉会館移転問題〉…令和3年の福祉会館解体工事完了まで記載しているが、令和7年、跡地が犬山城大手門櫓形跡として史跡犬山城跡に追加指定される答申が出た。犬山城跡の整備基本計画を作成し、便益施設の基本設計に向けて準備中である。

部会長：史跡整備に関わるので9章の担当者と調整する。自身の項では少し触れる程度にし、参照先として文化財関連の項を示すのがよいか。

委員：調査執筆委員への執筆依頼は章責任者からしておく。

○章・節・項をまたいで内容が関連し、近くなると思われるので確認が必要になる。

事務局：第3章第3節第1項、第3章第4節第1項〈通勤通学者数〉統計…完全な重複ではないと思うが、ページも近いので確認が必要である。

事務局：第3章第3節第1項、第3章第6節第2項〈買い物調査〉…「人の動き」「産業構造の変動」で執筆の視点は異なるが、どちらも令和元年度のデータである。

事務局：第3章第3節第3項、第7章第4節第4項〈モノレール線廃止〉…「交通」と「観光」で分野は異なるが項目としては重複する。

委員：全体のページ数のバランスが取れば、自身の担当分から削っても構わない。

委員：第10章第2節第1項の木曽川景観協議会に関する部分で高層マンション建設問題について触れたが、第1章第1節第3項と関わるかと思う。いずれ覧委員と調整したい。

委員：城下町と木曽川沿いの景観はどう関連させるか迷うところだ。

○資料編とのすみわけをどうするか。

事務局：第3章第4節、第6節〈産業関係の統計〉…資料編の表をグラフ化したと思われるものがあつた。同じ統計であっても観点や見せ方を変えてそれぞれに載せたい、という考えもあるが、参照先として資料編の資料番号を示す方法もある。

委員：再度、確認したいので具体的な資料番号を教えてください。ただし、職業分類と産業分類は異なる。

※図3-4-1は資料編〈8-2〉、図3-4-2は資料編〈8-1〉、図3-6-4は資料編〈8-34〉、図3-7-1と図3-7-2は資料編〈8-52〉

委員：観光・文化班では、資料編にグラフのみ掲載されたが具体的な数値を出したい考えもある。紙面と相談しながら進めていく。

○企業や外部団体について記載する際は、バランスを取って中立的な立場から扱う必要がある。

事務局：第3章第6節第1項〈企業ヒアリング〉ほか…沿革や事業内容が紹介されているが、特定企業のPRになってしまわないように注意したい。

委員：地理学では普通に扱う情報である。企業名を載せると宣伝になってしまうだろうか。企業名を伏せてアルファベット表示にしてもおかしいことになる。

事務局：企業名を伏せる必要はないが、バランスが大事とは思ふ。

部会長：他の自治体史で書きぶりを参照するとよい。ところで、このようなヒアリングの内容は何か記録として残っているのか。その場の関係性など、客観的資料がないと問い合わせに対応することができない。

事務局：まだ原稿しか受け取っていないが、元のヒアリングメモも提出していただく予定。

委員：民俗班の合同ヒアリングは、記録係2名を置いて資料として残している。

事務局：第10章第1節第1項〈京都大学霊長類研究所〉…根拠資料に基づいているが、小見出しに「迷惑施設」という言葉が入ると目立ってしまうので配慮が必要ではないか。

委員：資料から引用して（『 』付きで）記述した。まずいようなら書き換える。

## 【地図】

事務局：読者が市内の大まかな位置関係をつかめるよう、巻頭に近い部分（目次のあと、本文の前）に配置する。折り込み（片袖折り、Z折り）形式で入れる予定。羽黒地区の色を河川・池と区別しやすくし、文字を大きくして読みやすくする予定である。

部会長：犬山城、明治村、リトルワールド等を追加した方がよいのではと意見した。桃太郎神社もある。

委員：各地区の色分けのせいで文字が読みづらい。池野地区の色が暗すぎると思う。神社でいうと、大縣神社、尾張富士大宮浅間神社、針綱神社も…となる。祭りの分布図や、尾張三山などの山がわかるような図もほしい。

部会長：尾張パークウェイは文字で示した方がよい。また中央自動車道、小牧東 IC はどの辺になるか。市外ではあるが、周辺地域からのアクセスとして示した方がよい。

委員：「東部丘陵」という場合、具体的にはどの辺りを指すか。「愛岐丘陵」という場合もある。本文で扱うので、大まかな位置を示せるといい。

部会長：今井パイロット地区も出てくる。たくさん入れすぎると見づらくなってしまいが、本文内に出てくるものは拾えるといい。

事務局：年表については現在、検討中である。本文の原稿がまとまってきたら、どんな項目を入れるかが検討できると思う。

## 【スケジュール】

事務局：次回の原稿締切は 9月16日（火）。レジュメや進捗状況の報告ではなく原稿提出の期限である。中間まとめとして、その時点で書けている原稿をご提出いただく。できるものから内容を確認していくので、原稿とともに参考文献もできるだけ提出をお願いしたい。表記等は素読みでチェックできるが、内容の確認には参考資料が必要になる。

11月中下旬に第3回専門部会（拡大、調査執筆委員を含む）を開いて内容の確認や調整をするため、その前の 11月4日（火） にも原稿締切を設ける。ここでほぼ揃っているとありがたい。

最終の原稿締切は 12月15日（月）、ここで揃わないと後の工程が詰まってしまうので、心苦しいが何とかお願いしたい。原稿はまとまったものから順次、事務局でチェックしつつ、編さん支援業者にも確認を委託していく。原稿確認に入ってしまうと業者が手一杯になってしまうため、図版の作成が必要な場合は早めにお知らせいただきたい。

部会長：できるだけ年内に形を作りたい。年明けには原稿の読み合わせを行っていく。

委員：章としてまとまっていなくても五月雨式に提出してよいか。

事務局：どんどん原稿確認に回していきたいので、早くまとまったものから順次出していただいで構わない。

## 3. その他

- ・ 次回の拡大専門部会は11月18日（火）午後6時～（犬山市役所2階205会議室）の予定。専門部会委員のほか、調査執筆委員にも可能な限りご参加いただく。詳細は改めて連絡する。